遠山祇渡集

下

遠筑彼集下

秋之部

牡丹堂藏

豆の葉よ秋風たちぬ山の家　卓池

ひとり出て遠くなるまの秋　一粛

庵ちかしかのみなし星の宗　葛良

畑や森の横手のゆふ月　村丸

風に傾く拍子木の音　見路（スルカ）

かいまくらたてあらさし蚊帳哉　禾木

秋の日はうつくしかりけり舟の中　駿鳥

月の出や川のもとより出る
出羽ふるさとの殿や嵐山　龜五
烟もこうち立ちの義うり里は秋　下サ　浦
芋ふくやうて碎きと船の碎　菜烟
ふくるは出て果報ふ女ふうの　琴松
名月の光りと完るを宵うの　芳須女
鹿峠や有知なしの橋ノ金　丹後　拒儀
寺へ来てふくるも淋しや秋の雨　本色
む峠やあの鈴たれ宵もあと　里遠
蕎麦畑やちくさうの公の報　松寿
　　菜碓

ぬれてみるは。蛙の鳴の桃
撫ぶてさしくふうぬまは也　可逸
初月や片笛あけて舟の仮　方舟
きのふまてまた四くも稲乃芒　下サ　伯雨
格の紅川乃むうのあ葉小　李風
人見の出船を岡出宝の那　筑後　梭女
本樫さうの家のうるりや乃は岩　米洲
ひらのうるあさ　けさの秋　眸斜
老わまは出さ　さ友ま菓俳　村丸
入月や　垣の外　西乃　嵐の　吳雪
　　田舞

[illegible]一里来ても軽そう
[illegible]木槿秋[illegible]
[illegible]酒つくる水もつる
牛車て橋を渡るや瓦の川　陸田漬
陣や　灯の影うつる　上タ牛
華表まて干てある映稲か　急マ
后の月出るとて[illegible]の原
[illegible]や　杉[illegible]の華の園
種の赤[illegible]て[illegible]
名月や赤[illegible]の上

牛乳
魚洞
梢山
方舟
塙牛
京
梅價
雅皇
米法
東深

鳴[illegible]
秋[illegible]や　[illegible]の上り　[illegible]の[illegible]
[illegible]の八[illegible]の[illegible]一[illegible]
陣の二[illegible]は[illegible]峰[illegible]
[illegible]一[illegible]
井戸ひ[illegible]
[illegible]
あ[illegible]は秋[illegible]
[illegible]
[illegible]

重山
森々
桃碌
蒲焉
村丸
イセ
梅樂
島里
小山
下サ
正
桐堂

明月の出るを合や池のゆき
きまのも砕まとつくろひて鶏冠
ゆつりと一義ちらしの花の
ゆ一つ浮き出るかるかの
こかぶと板をのちるや冬の月

惟学
雑年
糸柳
多賀
太老
一啓
菖良
吳口
伸女
琴松

蟹の出て紙もみ合ひの月
菓はく亭の口の菓也道
直こ八月ぬ猶や賜の都
春こまりよ日の海のつくり河原萩

糸

まきの出て生果ぬ生の侍の
おりころや同よりりもの
面重なる月や二ろり初の菓
稲つまのたりもるく山の市
稲むこの中の中や秋の月
ひつてたれこ柳や菓の色
初秋や鞍の汲もれ仕業
秋の来て咲ぬ生ふる形
きまこんこよとこ山れぬ来
山端へ出て百ノ花

祥山
さ意
梧白
田評
村丸
ひ月
施芳
青鷲
可大
来海
梅意

人住ぬ家にてはつる萬の花
苔の孫の木蔭引さる萬年
秋たゝや枕さつるこゑの
討ん人をもしの志もやの滝
孔雀まてくはつる庭の菓の花
つゝらはは夏さ現もあひとり
遠山や月は有り名の幹
萬咲や一番ゝこゝろ花岩たゝ
夕川家の夏木白のうちへ口
工夫さてる蛍の仕業や屯の蔭

重山
一葉
木ゝ
亀ゝ
ヒセン
孤臺
百村
潭水
高烏
蒲焉
楢山

柿賣て林うちあり陳屋の秋
月の出て果のつゝらり芒原
川こゝ果実黒やまや白木槿
母ひとり國の秋の蔦
桃まてゝれ今宵の月
うれ言をうくて萩のうれ秋
うゝうゝて吟まゝり秋の風
林さはゝゝ秋の蔦
面ゝ川のびく床や赤とん不
秋蔦まや蔦の秋の

永保
茂桂
太兼
大坂
こ午
風堂
清宮
翠柏
静齋
露暁
伸女

桂の実や いくもの古紀国の寺　　菓炬

用ゆる隣へ川も雑炊も　　方舟

萩の花 砂の上の月 夏の夜　　葛良

豆引き鮫の歯に月の雲　　明之

簡くしくしたる月の夏の月　　村丸

胡瓜や吹くらくしまふ戻り寺　　比古

形見や這ふ蔓も出て菓の花　　ワカサ 筆丸

そなへあげ 鮫の義 ゆかしく　　把儀

めらまもてあるの雨の菓　　南保

秋のり 三年 心根を 夜る月　　糸柳

傘よ 吹るる引 ちるの月

降る森の 枯木 ちる星

雨 ちる 稲 菓の 名 秋

二三 三 白 花 屋の 夜

入月や 山 ゆ 球 て 菓 帷

様 て 乃 て ち ち の 動く 月 夜

夕月や 萩の上 月 夜 月 青

秋 ち て 乃 ゆ る 弁 ち の く 屋

三日月の義 て 榎 と ち 月 ち の

ちんまやくの ち ち 乃 ち ち 秋 の 菓

下サ 寿山　　下サ 松邦　　下サ 帰山

江丸　　里梁　　蜜兆

隣里　　筑前 篠笠

宇逸

流考

稲つまや魚のたもと舟の中　汶月
心根太木に一百の葉せあり　保水
万引　葉の霧より白きまえ分　竹英
百日紅上つくよりは長寿　洞雨
角くらの起れて乃てくる紅葉分　正
いさましやあとをとらぬ吼口　三河　蓑宇
葉はくやけいもまく青麦　砂川
うら戸から使をまるる秋　方舟
江つくり里の出口やちる柳　嵐加
あさうやや起る若芋ちりて　雨都

萩ぞあや面よりあり紀芋葉　葉道
なく鶏るもねぬ明てちるぬ　夏風
鬼灯や海こそ見ぬ蔦の紅すき　葉恒
吹つる葉に秋りはかけ蔦　村丸
くれもも嵐毛てり黄ぞしる形　久子
新新に幸ひ弱る日ひけ　香月
灯をけをてかいくるぬ百葉分　ワカサ　六郎
種の実に出ぞる廣秋の風　桐雨
新の萩ちりくてひのちる名　素因
下積の葉に雪帰ちる　鶏郎

押入れあとうまくやり蔵大根の形
不用なるなるべき面白き菓
名月や指さす方に畑の家　丈山
鶏なくや霧ふかき夜の白じら　芭蕉
山ゝらやさくらかすみの日ても
夕飯も内掃きすやり秋の雨　芭蕉
鶏鳴よ書捨清水の芋ほけ　芭蕉
旅信の旅ゝ秋の雨　芭蕉
竹の影をよこぎる蛍　芭蕉
鶏寒の竹ゝあひ菊ゝ　芭蕉

費左
四良
沙陽
丈山
芭蕉
芭蕉
芭蕉
芭蕉
芭蕉
芭蕉
芭蕉

十三

ことに行きくらもり也路武
蛙鳴やあるくあのあるところ
鶏よ出ゝ鶏ゝ　あるる東宗
手も入ぬ蛙ゝ旅程のあるとかの形
ゝ風の吹ゝてやその川
十六夜やまくらに付る毎の月
鶏の一て系祇あむ菓ゝけ　丹波　芭蕉
おく家よ初　のゝ　ゝうぬのゝや　ちさ旅
人ゝとゝ度よ清る也大の形　李渕
ゝ川ゝ毛の月ゝ舟の後　与一

夏月
蘭智
梢雨
南涯
清雅
和風

おきまして起る角力取
手まくらや祐仲ゆる面乃宵　近岫
杉原の面まくらいるる郭　露桂
みち時雨とてたやらあさる板の音　女柳
顔洗ふ盥の先や　相一　筑前　一操
鶏鳴の声あまりて伽まる　鳴門
丸窓を回こうる起るや紅嵐　柳志
鬼灯の白玉あるる秋の色　里楽
そ一洗ふ人形そ一芋柳　寸美
降らるとくとと思ふ月の外　村九
　　壽堂

おだうと野ちの鶏やそのの家
百姓のこもりよりぬ後の月　椿蘇
おるる白の日蓮や果乃　宿　鶯峯
つゆ入家と菜りひとあるる　啄月
石手やもも石菜おるる菜　浮越
住とくの行まめく地おもる　皎月
手あるるも出てあるる菜の中ま外　漫芝
　　スルガ
末ゑやうて揺てもみるもぬ躍外　迷山
秋りやもるるの祝る庭方まる　田美
秋のうや蔦ることるもるる菜る面　久幸
　　久盛

狭しろやみちうたてても月の上　なか川

粒針を拾ふてしまふや月のかげ　寿垣

香炉やそれ程とちり鹿子の声　松友

ほまけたる奴の尻や秋のくれ　文る

海月やまぶしおかしも米の中　道降

川越せば町のかへやけふの月　尾張　太菜

風わたる日もつゆしや稲のむし　翠雪

稲妻あり様き合せ鍵みるたれ　楨女

物よれやもしのあるゝ毛を隠るる　柏翁

おもしてもちらしれ出しぬ節笠　風調

秋の川や障子を移す井の影　楚雀

峰もせまり底ふかしまの宅　森々

張あひのかはらさびしる月夜哉　東洋

ゆふ庵あるかのて佛しや去年の秋　把儀

菜のむしみ棄らしれ白むし赤　鈞葉

よのうけをみ常にもどらしまへの月　蒼臥

こらへなかし大宴ひや名残蝶　江戸　恵示

気たる日がたまてよる二葉ふの末程外　其笑

楽角の清めて薬草や十日色　梢山

加茂川やさて来の下みれ隔れる　洗首

郭公や日ハ出なから松の影　村丸
杵音の遠く聞えて秋の聲　廷雪
踊うたふの聲見て萩の花　如菜
行しほにむく松風やけふの月　茂蘭
名月を歌のよりして小舟かな　魚渕
清撫く形りも露や門の月　世岐
二里あり七桃くらく薄かな　近江 梢陽
木啄の清くくや秋のよの雨　方舟
引むく梢の葉も吹わたく嵐かな　葛良
六の残手と迄こ汲む月夜かな　風一

葉稲をくれこんなる小家かな　打梢
星うつ宵梢の山端見え鳴しきり　孫鳥
松虫の声ほとつく月の夜すがら雨かな　琴松
夜てんり日まちうらなり秋の蝶　江戸 一枝
こさめしまて哂や蟋蟀のなきまする　葛己
萩くれひ芒とに吹て月見るかな　村丸
浣河へ荻あはせて出る田面かな　小山
初志ねや雲くもなく妻州暮　田孫
夜露人来る影よ影さす芒かな　嵩卿
標あつふふうとや秋の風　其月

三の丸の一本松に踊る那
新月の宵を宮ごり　松の根
歩とりけて味ふ揺ちや蛍の影
月さあよかさふく校や蛍　凡
戸とたて　て　たりぬ家の書
学難と　紅　みる　蛍
ちんかて　ちと　花の那
燃蛍や　松　て　て　て　片
ひやと　引　蛍　の　花
夏　ふ　秋　の　ふ　の　那

近江

白
菖蒲
良
兎玉
茶烟
皎雪
石鼓
村丸
魚洞
高雅
大梅

乙の川　那　ち　の　乙　う　那
名尺　と　ち　ふ　き　月　ち　る　ふ　那
り　秋　や　り　川　ま　て　赤　き　雛　ち　ち
ものよ　ふ　ふ　ふ　ふ　せ　る　や　た　秋　ま　ぬ
一　様　ち　一　面　み　よ　岩　秋　の　ま　る　ち　り
蛍　ん　の　あ　り　た　ち　せ　た　ま　の　ま　る　た
み　四　り　の　烟　て　月　ち　て　ま　て　た　る　た
年　り　て　て　ふ　て　て　ち　る　月　ち　て　ま　た
夕　高　や　ち　ち　ち　の　陰　よ　る　ち　る　月　ち　て
引　汐　や　ち　ん　の　ち　る　月　の　ち　む

奥州

島里
方舟
一仙
森と
東海
荷壺
雅皇
兎心
吳雪
一貫

あふなくてあるもの芋はの葉
年一市の日そしたよなる堅ふ式
菊畑や　毎日かくはかり　春
ちよ〳〵と大とと折ふやそこの月
柚柿ふるもの皮のあるとうあるる
河そ来の橋くくなりぬけの月
一ちとと白山宮守はつても踊ると
皇角ふの松ケ丘　鶴の鳴り
鬼灯よ打ふ色日のさすかるれ
ふる人の手柄そのれ形酒ふ形

蓮舟
勝研
梢琴
奥州
雨鶏
ちき雄
李風
蘭碧
葛良
明之
村丸

次の夏人笑のこつ月見ふ形
名月や帰日ふきみれ音
傘さしたるのあふれ菊畑
蕎麦や日の出うる霧の上
なく雲のふ月なるぬ庵の光
月のそうふ清てあるふ
やうと妙帳干ねし清る屋
つ無ふふけもと同一秋の夕
ふ月形や猪の光ふる笠波山
山里や　咲ふもせる秋の月

蒲鳥
梢陽
扶女
松寿
里遊
五流
茅次女
方舟
伯海
西月

稲妻や あくまで降ぬ小一月　書路
咲中や 屋山ふる萩の 萩　村丸
山門や あくまで降る 時雨の 時雨　歸山
松風を 吹こして 其時の 時雨　菖良
吸つられ こちらへけつる やなぎの 秋　英雄
秋月や ちらつく月の 秋の 月　方舟
門番の 鼾聴かぬ 秋岸の 秋　月貨
手の内の 月 雲をあまよ 月　一楼
海見 きて 雲の引 雲や 雲　昭之
赤甲や 踊もあるも あるもの　丁知

俳諧之部

日も照て月も淀し花波山　方舟
霧の 霧を 降る 秋 雲　抱儀
雲の そこの そこの 門掃て　多愛
時雨の 名 よ 高う 淀久　舟
月の 秋 何 の 秋 て 隠 さ に　儀
入 梅 の 時 の 月 の の 梅　愛
そ 梅 の そ の 月 の 月 あ り　舟
いつと 酒 の 名 の 伯 母 智　儀

夏　の所にて臣燈の焼と写されし
舟　ちよろ〳〵ふれめる板の目
儀　時とかく板まの明れの奥
夏　罷り出てくれとなりて
舟　月のもとに笛の音もちくなるぬ
儀　むさくしきらを吉一き勅幕
夏　張打やそこ打佛まもひ命し
舟　出山りの義うこりあるる
儀　月としもとまこと茶摘時
夏　あこ〳〵ふるる吉凶の時めを

引ふるりちるて殆こ法の明
唐紙のうたけ仕舞書物
惜てそこかそこ〳〵ふ物
つのあこるもこて連係
弁る物の弁ま つ引る縁を
義を掛こて鞠場ふこる
ちちつてちこて宿稽
国のふるりふこ山ふ
法文の様ふ通こる月の秋
唐りしらせこやあの見

舟　儀　夏　舟　儀　夏　舟　儀　夏　舟

出沢ハ筆も大方さき筆も荒みし　儀
つゆあとも一てん血する　寅
肴屋の四つ坂紡て年明まり　舟
坊守になるて使みやす　儀
此何ちゐまたなくて出来探　寅
三年ごしのひとつも済居　舟
つやしと橘の芽をとつて花の中　儀
虚もこかき筆三つる　寅
種の赤こと打し出てる世界　来海

見ゆるし棟さし丘の端　午 氿
團圓にはよよ京のつらひて　海
車のそろてくかまくき　氿
夜の芽茅のせるおかよ要し　海
辛しるゐ堀入大松　氿
汲叶のた何まて縫とあせ　海
旅寛の本まと節もお棚　氿
饅やふおかてお前のうつし　海
かくてたのしさのうち栽梅　氿
車ひく岩布声のうちやまま　海

寺の光りのつよい六条
西へ七月廿七日
牝蜉蝣
一さいさきもゆかたもたたせ
庫裏さいさい上川端
目のさめるものの本の色彩
雪白らかつの格
弥入のこれよりたたせ家あり
ものさのよりて豆
下おろかしかしこの姿の

海 気 海 気 海 気 海 気 海 気 海 気 海 気 海

三てくるまをうわる国のり蜘
仏ものの四月廿七日
相撲のもの供ものへ
茶屋のさいさいつ
水粉のおもかけ
秋風のかの高の
幡さいたいわらて
多の月のやの
寺鞍さ
茶屋のものの

海 気 海 気 海 気 海 気 海 気 海 気 海 気 海

[illegible]

元海

元海

元海

隣から[illegible]

葛良

明之良之

[illegible]

榎[illegible]

良之

良之

良之

良之

良之

良之

良之

良之

盆[illegible]

妹[illegible]

[illegible]

[illegible]

不二[illegible]寺[illegible]

伊[illegible]谷[illegible]

[illegible]

[illegible]

柚味噌やら行屋らもの焦臭き　良
後ひ橋の抜抜とろろ汁　く
吸物ろ菊のもろ花あく　良
ほひ弱ろのくるる茅をく　く

、

蕣やちくもろ絡ろ蔓の中　一具
ぬてもちろ月のある野　荷堂
温柿の味ろ傍から見て　、
ちろ炊もろ西瓜割らせる　具
温泉の臭ろ柿も絡ろ　、

言葉を梅小屋ひの臭し　堂
ろうたきさ八世界ろ　具
ろ合乃ろ　堂
絡ろの町屋ろ坂の上　具
みのその小八ろ　堂
ち つ中ぬ舟もろ　具
さ　やくるのろ山用ろ　堂
てうくと文丹の彩の出　具
味ろ者の菜ろ蓋ろ　堂
手作ろくおくろ　具

掃除とはいふ事なり 築山
鉢たゝきくさせるものもあり
筑地をつくるなり 坂賀とも
敷入のうち 指もくつろいて
巣鶴入るなり 迷宮のはなしあり
信て賞玉すなり 西洗のもつ
移のうち ひこる 指の内
薬らとてもあ 指るも

堂具堂、具堂具堂具堂具

法ゝ引て日掛あつまる
如ゝ云の居をつくるなり
茅葺もあり 法ゝ 指も
名月もるてまあ あく 方
まつ ひとし 神の 指吹
塚付の 畑と 谷地
夷講 移 る川
穴 松 ふ
ふ 吹 指
ち 建

堂、堂

五かのや小夜縫ふ人　具

門小松打ちて一本残す　大郭

妻木焚き出けり秋の雨　收山

冬ごもりさびしき雨の音　五全

鶏焚て笠ふる雨の月夜　一枝

戸明き出やすしも月夜　子羽

小半日みちのくの秋の雨　千瑞

夕月乃鶏鳴ずし　布道

鐘の響のちるや夕月夜　朝翠

雪の雲はらや筑波の夕霞　大梅

降やむと雲の二方の雪　楢山

羽代守ものの行くるめし　兎口

風のうつるに風の音　方舟

雪日とおのひとつ時雪　江戸　玉翠

小松打ち樵の家の梅　三河　丁知

雛の宴をてり　流芝

仙や地の雛の雪峰　村丸

冬の来る音なかりける竜の敷
松風の吹かるるこゑ冬ぞ月
時雨やおりひの声の正入日
かゝせても見てくるる紅葉哉
手を折て物かゞ一雪つゝ紅葉
河豚のこゝろ戸閉の衣や陣屋
本も植て盆栽の小春哉
粒針の椽ゝ老や寒の鶯
うら風ゝ冬のつまゝく枯野哉
落つゝ一雨ゝ時雨の野

江戸

江月　斗蓮
蘭子　吳郷
島里　貝之
葛良　琴松
村丸
寿山

斧ゝ一雨ゝ来るや侍し雪用意
雪の禁中と時雨ゝ野哉
山ゝも出くやゝ紅葉
寒ゝも白のゝ雪のあゝ野
冲寒ふ一里ゝ枯野ゝ
ゝ冬ゝ雨ゝ独ゝの松ゝ風
上弦戸ゝ閉すゝ安さゝ雨の月
ゝ冬ゝ一雨ゝの枯る音
ゝ冬ゝ時雨ゝ冬ゝ
雪ゝ寒ゝ月ゝ見あゝ

下サ

栗山　西湖
芳須女　陽山
松儀　葉碧
松寿　露桂

奥州

宋雨
典翠

煙をかくしてあとまる住かな　應之

二日月や稲荷家のすゝき哉　ちよ旅

見ふきれ枝垂ゆや冬隣　め柳

狩原の菅も冬枯て茅か薄　睡嶺

ヨリ
山吹も水仙や雪隠なりけり　鳳也

大風の吹尽したる手前かな　呉雪

萬境の花のちる小春かな　松友

時雨や竹くらき小竹の原　ミコ 雪村

みよしの峯や入江のうき船哉　田拼

冬枯しむしきすくらし山の色　村丸

木からしに吹さらされし寒さかな　嵐舩

伏見とは枯つくしたる尾花かな　南涯

川尻や関もと隔て帰る雁　村丸

菅部なとは折りぬ小春かな　白起

江戸
御所の灯ましる見世の鳴　遅流

生垣や枯葉を掃ふ蝶のあと　東夫

さらしく飾る菊や枯尾花　文子

牛の背に冬も吹けぬ時雨哉　兔口

出家とは浮世に淋し冬の仏　小山

掃もせぬ蝶とむせるや新嫁　方舟

面の日ぬ陰まあ宜よ雪一所
小ふる時雨ふる夕日哉
只てさへ二ふり枯野の月寒
ふる形へ軒端雪ふるや夷講
信濃の国あらまの菓哉
明方や志ふるの雪ふりて地ふる紀
流れて雪ふる雪ふりほ春雪
地ふる大時ふるの梅や天の邪
人絹の義加けまふる十夷哉
降積て雪ふる山ふる哉

越后

遅雪
高鳥
茂林
北沢
菓子
里秋
魚渕
菖良
村丸
稽山

さて雪一面ふる雪ふりまふる歳暮哉
雪の眠ふる雪ふりて津一郡の雪
ふる雪や入江の雪ふる能登山
春ふる秋のふる常山雪の雪

信濃

雪ふる雪ふる雪ふる雪ふる
餅ふる雪ふる十夷ふる雪
ふる雪ふる清ふる雪ふる帰ふる雪
蝶ふる雪ふる神の灯ふる雪哉
雪ふる雪ふる蜀雪ふる雪ふる雪
初ふる雪ふる雪ふる本雪ふる雪ふる

有吉
潭水
如蘭
石鳴
巳牛
荷壹
霧暁
面雪
相壹
牛乳

四条の橋を渡りて
り炭の俵をうらさびやや雪降り
交竹ふ解とあてて十数か
菜の葉の青も深くあるしるべ
満月の隈と筆清きてあるべ
三角なるのあるうらみなん
橋板の孔の残るあるべ
四五日なれば孔の残るべ
五年は五年まゐりや本願の
ちんまくの反けよ降のあるべ

皎雪
惟茅
雞年
蒲焉
吐山
四良
婁居
多實
一碧
葛良

撥ひ色て茅の葉もあれば
焼きさる橋の一筋はかり
名の日は蓑干ほのかう郭
茅鞋もあるかりてそ高成
降雪の中たるもあるべ
出るわしの方へ出るかり
しるや桃の一里の西なり
日の前や花ねもあるべ雪
神棚の前宇紙家小嵐う郭
名来えいつのまに隔田川

ちはる
茅峰
橋翠
一肖
田莫
安芸
三葛
才莫
千幸
角月
方舟

雪のあり様をうかがひて
人通り絶てうそ吹雪かな
一人殘らず来けるき火かな
樵さへ寒さに堪ぬ顔の色かな
鉦と見るうつろ人も亀甲かな
叩まて鳴る戸口の雪しろかな
風の音のみをつくせる山
寄せ来の加へぬもをろがむ
樵さ来たるまつ山ついて降出
新りのやうにあるやうの雪

文昌
祥山

江戸
霞光
卓郎
寿増
桃隣
梢郎
吳雪
村丸
天黒

鳴まるる小舟の一番さふとん哉
木ゝに花の風のまゝや雪のまゝ
風のまる小藻の舟越せるうり
磐のみをうつ人の寒の花の形
河豚汁酒を命の捨られる
ひとるらしてつゝ付ひしう酒也
多仙よ風の通をぬ小庭哉
雪の尾ゝ打ちやゝ寒の柘榴哉
赤雪の掃除ゝ雪ゝ雪やもしりよ移の庵

田弼
島里
蘭子

江戸
雞村
一葉
亀山
重山
香月
吉美
兔口

嬰とハ之てのんせうの手
杉をさして松望の秋の末を
望をうまて風ハ其の人を吹
小杉を見るあるとしをつけ白
みをうまへして山をみるく信の形
三月を後の山をしてをの末を
よしををとをうををを市ハ形
本孫をうを拾ひ物や松柏の色
吹ちをやこををををけを拾
及をちをまををく拾ひ雪の山

梧白
靜齋
清客
如柳
千瑞
露樓
蛍窓
勝所
夏如
壽文

なを白てりをのはゆ雪の京
初をよんをこ京へかをや初時白
解を水の美をを見京をを形
十月や刈田の孫の子紀つを白
川をして来をへをある稍を形
牧ゆ一ひ雲かをるつくを山
さを鐘やをみを拾のあを来
美を和を言の美をなる紙を形
美を京へ吹を西月の千をを形
みをの白紙ををくてをを年を形

江戸

松友
稍白
吳々
拾儀
茂翠
舊京
昭之
方舟
琴松
帰山

一面ゝ降て跡なき時雨こそ
船底の新さし出やそ雪の笹
はつ花ふき月ゝ花見時の野
入おの篠ゝつけぬ志ゝ原の
年切のしてゝ梨のかゝりむ
ゝゝや入まて月のはゝ見
筆はゝ雪ゝ雪ゝ表紙小春時
雪のゝゝゝゝ沈まて来ゝ
芋の跡のゝゝゝたけゝ時ゝ
雨ゝれもゝゝゝゝ表的の

栗山
芳須女
松壽
治仙
村丸
江戸
金牙
鶴聲
鳥郷
島里
香月

雨の外一筆てゝ雨ゝや川ゝ
情乃来ゝゝゝゝ節一季そゝ
月代ゝ一ゝゝ山鴉の白髪の
家金弁の物艮銀ゝ小春
歌ゝ和のけゝゝひくゝゝ家の
初雪や佛ゝの箱のゝゝ
ゝゝゝゝゝゝ合田の花ゝ
かゝゝゝ新ゝゝ掃ゝ門ゝ雪
咏ゝゝゝ舟のゝゝゝ夕時
歩ゝゝゝ雪ゝ松の横手

スルガ
野路
壽山
汝月
異州
吳々
百年
明之
蘭子
喜水
魚渦
ヒタチ
一紀

蔵茶うさこう屋やや雪やタ雪り
戸をうとうと紀義拾て時雨こうの
犬の新なくてうとう　斜理屋　司芝
埋火や口てたるとは寄所法　素因　方舟
降やてのうとうと寄なぬ多の白　イセ　梅鳩　一枝
雞のりあとうのたうとやみ仏む　香月
のうとうとうとうもとんとん松花の也　孤米
たうの雪はたとうとうとうとうとうとう　万須
出掛うう月のつとうとうとうとう　林曹
とうとうとうる木履をとうとうとう　雨村

強あとく雞のとさや初時雨　司芝
吸表の煙とてみうとうや雪の上　雨村
岩陰とうとうとうとうとうとうとう　丹波　俵瓜
とてて眠る形の孔雀や　徠の猫　菜逞
時雨とうやとうとうの多さ雲葉　夏月
とうとうのつて雨とうや枯野原　戸山
星とうとう球る表の蔵茶形　露桂
雨の降のとうとうとうとうとう　可門
夫とうとうとうとうとうとうの梅　村丸
出とうとうとうとうとうとうとう　伸如

ふりつゝ花用の中にくもの雲
越后ちゝ世ちゝの日やゝの雪
路仕ちゝ人も行しき形銭一
一部の耳よ花ちゝ雪の雪
飯樋王ふんまくや路の雪
雪ゝゝ人ちゝの市
義五郎の林き金和尚
りんのちいゝゝや雪ゝ
風うけよ白ゝ城る少路の形
雪の中の中ゝ氷

李洲
近岫
楨如
峨山
東宇（イセ）
一具
清徐水
拷湯
風一
浮遊

七降の面あゝうゝ面の雪
淋ゝと日新ゝ千ゝしゝゝれ
雪一石の清ゝ日ゝ清一柳橋
雪土の蔵竹色や五月雨
夕立のあゝ山ゝし松の風
ゝ日ゝまいて毛毛見て雪雪
和のもゝ雪の屋ゝ橋ゝ形
夕立の色ゝ雪ゝ清の市
ゝの一ゝのもゝ原ゝ義水
橋ゝ雨の音や柳黄ゝ

露桂
近岫
英翠
李洲
清徐水
可大
李風
丁遊
ゝ世如
朱京

垣越に[illegible]木
[illegible]
[illegible]
咲[illegible]
[illegible]一人[illegible]
面のうち[illegible]
[illegible]日の[illegible]
雷の遠くなり[illegible]
[illegible]
[illegible]面[illegible]

戸山
相堂
南涯
松壽
蘭谷
千魯
夏月
砂川
村丸
里遊

八日　[illegible]田[illegible]
咲[illegible]の音一つ[illegible]　秋乃雪
[illegible]の[illegible]枯杞の[illegible]
雪[illegible]も[illegible]
[illegible]
[illegible]の[illegible]
[illegible]
[illegible]寺[illegible]　枯柳
[illegible]氷[illegible]
十月の[illegible]
[illegible]
月[illegible]

南渓
江戸英山
永保
糸柳
春水
梶丸
多賀
ムサシ濱吉
東洋
翠雪

松平さつまかみ初対面
きつるゝと彦根屏風の板　村丸
三月廿一日　若たんさて拵る　北古
別にて先世ゝとけふ月水　香月
何たる哉とのゝ北条氏　方舟
生姿ひの方ゝ　ちゝはけるゝ　葛民
山茶屋や拵てある紙の屑　松都
名残惜屏風の古ひるゝ　七夕　清水
拵らもゝや拵ゝの月ゝ　保ゝ
お宮の戸ゝ炭屋の手拭ゝ　夏風
桃孫

俳諧之部

岩穂て新ゝ　方舟
月代ゝ代　巣笠
ひとゝて拵ゝ機ゝ　護物
ものゝ　舟
よせ紙ゝ　笠
行年ゝ柳の芽ゝ　物
あたゝ風の吹ゝ　舟
ものゝ風ゝ　笠
ゝて吹ゝ

物　舟

笠、物　舟

笠　物　舟

吹あらす風の中に年暮るる　北儀

雪もなほあら月の空　南渓

降残る山のかなたの入日さす　儀

ちらのこる雪に桜の新芽哉　渓

雪の中まのもあるあさぼらけ　儀

庭ぬれてのこる雪の立　渓

雪ふるとてこそ年の暮　儀

出来夏の子はなして眠るらく
そこら中書画てちらす寺領見
又觸なれれ金の座行
月花に浮ひ鏡と咲く散るし
とし八余経の案も文
こちやつて夏て親の用なりき
りそこえまて伊勢参宮姫
荒き雪垣りたつ男の盛ふて
正月のこのはな新たなる
まくらをもと混鈍もされぬ暖さ

渓 儀 渓 儀 渓 儀 渓 寿堂

草わらのうさよおちる經
せうからつい来てあひりして仕舞
割木の浮け深あむたてさ迄
咲くとてこそ見えてちる梅の花
ほかくしいもすりこさぬ
りり名々岩林の庭と流れて
名經鏡き數詞の西郷
本にと来るのとこりの女流藤人
見ゑてさもなき庵き浮原
加昇のもろもて庵るみの月

儀 渓 儀 堂 渓 儀 堂 儀

戸棚さをむしの巻

枯葉のつてらなぬ蜂屋柿　溪堂

ぬるゐ人てみて酒者もたる色　儀溪

古家のおとこ車てとそとせる　溪堂

ものとらて行ものも都さ　儀溪

紅葉の中も時ものくひさる　溪

ものとなりてもとも中色

あらぬやかるるのある意味　朝陽

柳の時のうつくしやら戸　惟子

山の紅葉をけるる夏角角て　陽子

春なるも人今一ちを注意色

生魚の活まく雲なる月　陽子

赤根さ結て毒蛾の屋

凡象の注切あつ心初あら　陽子

ちさくなる赤つらく　陽子

寄鍋のおて傍のなかこと

溺も引に上つ夏壹　陽子

雲のうて女の多をし反　陽子

神ちてくつて実物　陽子

三十七

ちる花に踏ミて眺の付つき
木咲さる雲に舞しを陽
ちらしこゝろあるに舞の芋
かゝるそ浮きて藤咲湯
月の浮ましく人の日に見え芋
ちらく網も杉を山座湯

網浮に鮎り日の手付る乳芋
ちらみとぬくさみの鮎ら
杉の下に樹のちから皆る壽雲
林書
松園

三十八

ゆかり哉うきを見え四澤
常書の代思ひ待月山見え蘭舟
杉ちりてさなる雲の積り堂
皆笑宿むけても晴の帰き書
浮き京にまてる寺れ杉好園
件もしと見えて蝶ましく澤
のうけすみそ用を思きね舟
さるやさをたてるつかるのかけ堂
さもたましいい杉浮のさくし書
徒浮子坂のむさくゆたら月園

貯てとんぶ清水一桶　澤
祇園の宵まつりとて　舟
中一刻ばかりとて上る絵札　堂
ゆかしきものの大根屑多年　曹
菊坂の清水かわくゝ　園

時雨降り暮る春　護物
菊代の押しあるかな　殺生
ゆきまさと殺治の春雨　物
梅の用意の一折弁当　生

さゝ屋の内ともに用一月の雲　物
秋もかゝらぬ萩の百　生
寒ゝの家ゝにてもむ茶園哉　物
白髪のさを里ゝはるる　生
冥ゝさ生の目利のたより　物
ふたゝび埋る隅川　生
月ゝ春の水ゝるの明ぬ陰ゝ　物
多の痛むとて逢ぬ哉　生
ゝゝ市の日やゝ小一時　物
春のさまかゝる月の五文　生

永楽の行ぬ紅の堀　湯
いろ〳〵用の品々箸　魚
ものあらそふちよろ〳〵小雨し　物
雲もさてはあめ〳〵晴　魚

、
春さよ散る紅葉　方舟
行年の名残の日数　菖良
此命を瓶挿ちに　舟
木賃さらで登るのうら　良
三千年の清水を風の月　舟

山桜の花の角ふり　良
清水推てあく戸を押く枯の　舟
あと後あの月ばかりとてく　良
うつくしかりしみ仏の　舟
清姫が住ぬ不縁の鐘　良
永劫の長夜一小揚　舟
坊さまの如ある迷ひ　良
坊さん坊主数の一月の　舟
蓑の油の秋を喜ぶ　良
裡河の八幡行よ　舟　雛

不二ヲ[illegible]
陸奥の国[illegible]
[illegible]代ハ[illegible]假ハ[illegible]　鞍骨　良
[illegible]三井の寺[illegible]
鞍馬ノ[illegible]　舟
[illegible]　良
[illegible]　舟
[illegible]　良
[illegible]　舟
[illegible]　良

[illegible]
[illegible]橋と云[illegible]
[illegible]　舟
[illegible]相撲[illegible]力[illegible]　良
[illegible]　舟
[illegible]　良
[illegible]　舟
[illegible]
[illegible]小処[illegible]　良
[illegible]　舟
[illegible]　良

[illegible]風の白[illegible]雨　舟

義掃て[illegible]　羲飢

しけ[illegible]の[illegible]埋火の風　方舟

船の[illegible]里[illegible]　壽堂

あら[illegible]の[illegible]　飢

月の後[illegible]　舟

[illegible]　堂

芋[illegible]　飢

掃[illegible]　舟

[illegible]の[illegible]の橋　堂

[illegible]のと[illegible]合歓の[illegible]　飢

新[illegible]ちの孫[illegible]の枝も[illegible]　舟

[illegible]　堂

四月[illegible]　飢

[illegible]　舟

七夕[illegible]　立

[illegible]　飢

[illegible]小財布　舟

[illegible]　堂

ころく庵も一桶あける彼岸已
　喧嘩も鎮りて居ふなる
さかりと祝儀をせる上り船
流ゝ法よりして灯口たちつく
志つ病を訪ひのあとまれ嬉しさ
　畑の世話にとまちね勝哉
そろくと岐阜も植木の花の状
　家く飯乃安用をとまる
当分ハまつ手も以ゝ然掛風哉
　そつと来てみる濃尾の鴫

西畷の所めさ月ハ二月もて
　中稲をおうす俵ヶ夷助
摘の花てもちてそろふ会式
　宿乃たやうて赤ヶ淋しさ
菜さまず酒をおしてゆるさ町
　けふらさいく上総りさく
作桐も一節のさせ祝ふ哉
　思かさ思へり　丸乃暖ら

追加

[illegible]と出る牡丹哉　絲盛
[illegible]　笑酒
[illegible]　十丈
[illegible]　古中
[illegible]　魚文
[illegible]　松樂
[illegible]　收山

寺の猶末てい大閤[illegible]

遠筑波集下大尾

下強の[illegible]　遠筑波集終

あ[illegible]　[illegible]

[illegible]　遠筑波集のみ[illegible]

[illegible]　[illegible]

[illegible]　[illegible]

おもひこしかれをまを
みるの海こえこそ
なむ

芳門

58.1 文庫